



令和7年度 校内研修主題

主体的・対話的で深い学びができる生徒の育成 ～自分事として課題解決に向かう指導の工夫を通して～

○主題設定の理由と研修の方向性(基本的な考え方)

昨年度の校内研修で着目した**協働的に学ぶことの楽しさや意義を実感させる指導**の工夫により、ペアや小グループでの**話し合いを安心して行える雰囲気**ができている。また、課題設定や場面設定を工夫することが、生徒の主体的な学びにつながっている。その一方、一部の生徒の発言で授業が進むことがあり、**自分事として全体で学びを深めていく**という点に課題がある。今年度は「令和7年度伊勢崎市の学校教育方針」の「確かな学力の向上」における、「発達に応じた、自己決定、対話・交流、試行錯誤の場の充実」との関わりを意識して、**自分事として考え**ることができ、**学びが自分のものになる**、課題設定や協働的な場の設定の工夫により、**多様な考え方**に触れながら「深い学び」を実現していく。

○研修の具体内容

1 学期

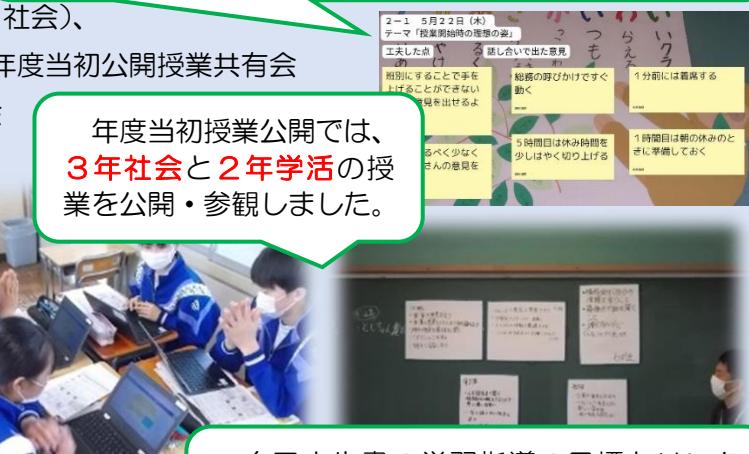
4月 年度当初共通理解

5月 年度当初公開授業（2年：学活 3年：社会）、

危機管理研修（食物アレルギー対応）、年度当初公開授業共有会

6月 個人目標シート共有会、評価方法共有会

自分事として課題解決に向かう指導の工夫と、「深い学び」の表れた具体的な生徒の姿を職員で共有した上で、年度当初授業公開・参観、共有会を行い、研修の方向性を全職員で確認しました。



話し合いスキル向上のために、昨年度から1ヶ月に1回程度、朝 PU の時間に全校一斉で、学級の話し合い活動を実施しています。各クラスで必要感のあるテーマを設定し、質問力を高めることを意識しています。

年度当初授業公開では、
3年社会と2年学活の授業を公開・参観しました。



自己申告書の学習指導の目標とリンクした「**個人目標シート**」を作成し、教職員個々の実践を共有できるようにしました。

〔参考例メモ〕

授業者（ ） 参観者（ ）

1 生徒の活動の中で見取れた事項（～と発展していき、～と記述していた。等）

①3人 朝礼で登場人物について、果然ではあるが、B班の登場となりました。着こなしがけで、四つ丁目から6番地となり、B班の登場人物は皆で登場。一月早くから、登場人物が「バーチャル」で本番をやっていた。

自分の夢を生きる。何よりも現実より豊かに生きる。田舎に暮すことよりアーバンに暮す方が

2 その他（感想・等）

・E君、書類がいい感じで運営も含めて、同じE班の人々の意見をリスナリングで
理解しながら書くことなど、もう少し充実してほしいと感じた。また、E君の運営方針が、
田舎に暮すことよりアーバンに暮す方が豊かに生きるなど、現実より豊かに生きる。
・前回の意見は、質問などをうけて活動の運営で、より理解したりと答えていた
印象が、今更ながら残りました。

公開メモ・参観メモを活用し、教科の垣根を越えて、**自身の教科指導に生かす**共有会を行いました。

個人目標シート（自己申告書とリンクした個人目標）		氏名：
教科	教科の目標（学年指導目標通り）	
英語科	• 外国語によるコミュニケーションにおける発音・文法を身に付けて、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの各技能を習得して、聴覚は英語やそれほど理解したり表現したり伝えたりできるようコミュニケーション力を養成することを目指す。	
今年度の目標	具体的な手等	成果
・外語の多様な文化について理解し、英語で即興的会話ができる生徒を養成する。	・確実に基礎知識を身に付けること。 ① 英語の發音規則を理解する。 ② 英語で会話を楽しむ。 ③ 英語でこれまでの学んだこと、英語で友達であるふうになる。 ④ スモールトーク 英語版として 行なうこと。即興的英語で自分の考え方や感想などを表現することのできる能力を養成する。 ⑤ CT等を使用し、外語の文化等を満喫することで、日本との違いを感じながら、日本の生き方も紹介などができるようになる。	課題